

*The Journal of
Nagasaki University of Foreign Studies
No. 19 2015*

タイ語の存在・所有表現

—日本語の存在・所有表現との対照から—

新居田 純 野

Existential and Possessive Expressions in Thai Language

Sumino NIIDA

長崎外大論叢

第19号
(別冊)

長崎外国語大学
2015年12月

タイ語の存在・所有表現 —日本語の存在・所有表現との対照から—

新居田 純 野

Existential and Possessive Expressions in Thai Language

Sumino NIIDA

Abstract

This paper is concerned with Existential and Possessive expressions in Japanese and Thai. Existential and Possessive expressions in Japanese are classified into existence, possession, belonging, special characteristic, internal existence, external existence, subset(of the entire set), and event.

Although they have the same expressional forms in Japanese, in Thai existence is expressed “preposition + Y(existence place) + mii(มี) + X(existential things) + yuu(อยู่)”, and possession, belonging, special characteristic, internal existence, external existence, subset (of the entire set) are expressed “Y (possessor) + mii(มี) + X(possession) ”.

After having compared these two languages, this paper shows the differences between these two languages. If the existing place is a living thing, the place is considered as a possessor. On the other hand, if the existing place is not a living thing, the place is considered as a location.

キーワード：存在・所有表現 タイ語 日本語

1. はじめに

日本語では存在・所有は「がある」構文によって表されるが、新居田(2014a)では、日本語の存在動詞「ある」に関わるいくつかの立場を紹介し、日本語の「がある」構文を意味的内容から「存在」「所属」「外在」「部分集合」「所有」「特性」「内在」「デキゴト」の八つに分類した。日本語では『存在』『所有』は存在動詞「アル(ある/いる)」によって表され、「Yニ/ニハ/ハ Xガアル」という表現形式をとる。(注 i)

以下、日本語における存在・所有の表現形式との対照から、タイ語における存在・所有表現について、現段階までに得られた調査用例(注 ii) および、これまでの先行研究をもとに、日本語の八つの分類に対応するタイ語の存在表現を用例よりさらに詳細に分類し、考察をおこなう。

ただし、本稿で扱う存在・所有表現は肯定文のみを対象としている。

2. タイ語における存在・所有表現について

タイ語では、『存在』(用例2-1)も『所有』(用例2-2)も動詞 *mii* を使用し、表現形式は『存在』の場合は「Y(場所を示す前置詞+存在場所) + *mii*+X(存在するモノ) + *o yuu*」となり、『所有』は「Y(所有者) + *mii*+X(所有するモノ)」となる。*mii* はものの存在及びものの所有を表す動詞である。

(2-1) ที่ สวนสาธารณะ มี ชิงช้า อยู่
thii suansatharana mii shingsha yuu
に 公園 mii ブランコ yuu
公園にブランコがある。

(2-2) เขา มี บ้านพักตากอากาศ
khao mii baan-pak-tak-aa-kat
彼 mii 別荘
彼には別荘がある。

三上(2014: 168-169)では、*mii* という動詞は「持っている」という所有の意味の他に、「～がある/いる」という存在の意味を表すとし、人やものの存在を表す場合は(1)「*mii*+X(人・もの)+場所」「～にXがある/いる」で、*o yuu* を場所の前においた(2)「*mii*+X + *o yuu*+場所」は、*o yuu* がない場合に比べて存在場所がより強調されるとしている(注iii)。また、場所を主題にして、そこには何(人やもの)が存在するかを述べる場合は(3)「場所+*mii*+X(人・もの)」「～にはXがある/いる」となるとしている。

(1) 「*mii*+X(人・もの)+場所」「～にXがある/いる」

(2-3) มี คนใน ห้อง
mii 人 中 部屋
部屋の中に人がいる。

(2) 「*mii*+X+*o yuu*+場所」(場所を強調)

(2-4) มี หนังสือ อยู่ บน โต๊ะ เล่ม สาม
mii nang-sue yuu bon toh lem sam
mii 本 yuu 上 机 冊 三
机の上に本が三冊ある。

(3) 「場所+*mii*+X(人・もの)」「～にはXがある/いる」

(2-5) ใน ห้อง นี้ มี เก้าอี้ สาม ตัว
nai hōwŋ nii mii kǎo i sam tua
中 部屋この ある 椅子 三 脚
この部屋には椅子が三脚ある。

また、吉田 (2008 : 88-89) では、「 $\overset{mii}{\text{มี}}+X$ 」で「X がいる・ある (存在)」を表すとして、(4) 「 $\overset{mii}{\text{มี}}+X$ +場所」 「Y に X がある・いる」で『存在』となり、(5) 「Y+ $\overset{mii}{\text{มี}}+X$ 」 「Y には X がいる (ある) / Y は X を持っている」で『所有』 (注iv) になるとしている。

(4) 「 $\overset{mii}{\text{มี}}+X$ +場所」 「Y には X がある・いる」

(2-6) $\overset{mii}{\text{มี}}$ กระเป๋า $\overset{yuu}{\text{อยู่}}$ บน $\overset{ti:an}{\text{เตียง}}$

mii krapaw yuu bon ti:an

mii かばん yuu 上 ベッド

ベッドの上にかばんがある。

(5) 「Y+ $\overset{mii}{\text{มี}}+X$ 」 「Y には X がいる (ある) / Y は X を持っている」

(2-7) เขา $\overset{mii}{\text{มี}}$ ชื่อเสียง

khao mii cūuu sī:an

彼 mii 名声

彼には名声がある。(彼は有名だ。)

宮本・村上 (2014 : 237) では、「 $\overset{mii}{\text{มี}}+X$ 」は、英語の「there is」、「there are」にあたる表現である、としている。

また、三上 (2014 : 165, 169) では、存在表現について以下の二つの表現形式と用例をあげている。(6)は $\overset{yuu}{\text{อยู่}}$ を述語動詞とする「X+ $\overset{yuu}{\text{อยู่}}+Y$ 」で表される「人やものが存在することを前提として、その所在を述べる」文で、本調査でも存在動詞としての $\overset{yuu}{\text{อยู่}}$ に関しては、(2-8) (2-9) のような所在文を得ている。 $\overset{yuu}{\text{อยู่}}$ は人やものの所在を表す動詞である。

(6) 「X+ $\overset{yuu}{\text{อยู่}}+Y$ 」

(2-8) ตอนนี้ คุณทานะกะ $\overset{yuu}{\text{อยู่}}$ ที่ ห้องวิจัย

tonnii khun Tanaka yuu thii hongwichai

今 田中さん yuu に 研究室

田中さんは研究室にいる。

(2-9) หนังสือเล่มที่ $\overset{yuu}{\text{ซื้อ}}$ เมื่อวาน วาง $\overset{yuu}{\text{อยู่}}$ บน โต๊ะ

nang-sue lem thii sue muea-wan wang yuu bon toh

本 冊 関係詞 買う 昨日 置く yuu 上 机

昨日買った本は机の上にある。

ただし、本稿では所在文は存在文における存在物を主題化したものとして考え、分析の対象とはしていない。

2.1 「存在」

「存在」とは「ある場所に具体物が存在する」ことである。日本語では「Y (存在場所) ニ／ニハ X (存在するモノ) ガアル」となり、X が非情物の場合は「ある」が、X が有情物の場合は「いる」が使われる。

タイ語では、「存在」は *mii* を使って表される。日本語の「ある」「いる」のような存在物が有情物か非情物かによる使い分けはなく、「場所を示す前置詞 + Y (存在場所) + *mii* + X (存在するモノ) + (*o-yuu*)」(用例 (2-10) (2-11) (2-12) (2-13)) となる。

「存在」：「前置詞 + Y (存在場所) + *mii* + X (存在するモノ) + (*o-yuu*)」
(用例 (2-10) (2-11) (2-12) (2-13))

(2-10) ที่ ประตู บ้าน มี รถสามล้อ คัน เล็กๆ อยู่

thii pratuu baan mii rotsamlo khan lekkek yuu
に ドア 家 mii 三輪車 類別詞 小さい yuu
玄関の横には小さな三輪車があった。

(2-11) ที่ ห้องจัดเลี้ยง ของ โรงแรม มี เปียโน ตั้ง อยู่

thii hongchatliang khong rong-raem mii piano tang yuu
に 宴会場 の ホテル mii ピアノ 置く yuu
ホテルの宴会場にピアノがあった。

(2-12) ใน อวกาศ มี ดาว อยู่ มากมาย จน นับไม่ถ้วน

nai awakart mii dao yuu makmai chon napmaithuan
中 宇宙 mii 星 yuu たくさん まで 無数
宇宙には無数の星がある。

(2-13) บน สวรรค์ มี เทพเจ้า อยู่

bon sawan mii teppachao yuu
上 天 mii 神 yuu
天には神がいる。

また、存在場所は次の用例のように、主題化されなければ文末や文中に置くこともできる。

(2-14) สมัยก่อน มี ไห ประหลาด ใบหนึ่ง อยู่ ใน บ้าน

samai-kon mii hai pra-lart bainueng yuu nai baan
昔 ある 壺 変った 一つ 存在 中 家
昔、変った壺が家にあった。

2.2 「所属」

「所属」には「人の所属」すなわち「人やその集合体である一定の範囲やわくぐみに人やその集合体が所属する」を表す場合と、「物の所属」すなわち「ある物（全体）にその物の部分が所属する」を表す場合がある。そして、「物の所属」の場合は物（全体）にその構成部分が所属する場合と、人（全体）にその身体部分が所属する場合がある。日本語では「所属」は「Y（所属場所）ニ／ニハ X（所属するモノ）ガアル」となる。

タイ語では、所属場所と所属するものが全体と部分の関係であれば「所有」と同じく「Y（所属場所（全体）+mii+X（所属するモノ（部分）」（用例（2-15）（2-16）（2-17））となるが、所属場所が人や団体などの枠組みの場合、「Y（所属場所）+mii+X（所属するモノ）+ooyuu」（注v）（用例（2-18）（2-19）（2-20））となる。「存在」では存在場所が場所を提示する前置詞がつくのに対し、「所属」では所属場所に前置詞がつかない。

「所属」（全体と部分）：「Y（全体）+mii+X（部分）」（用例（2-15）（2-16）（2-17））

「所属」（所属場所が人や団体などの枠組みの場合）：

「Y（所属場所）+mii+X（所属するモノ）+ooyuu」

（用例（2-18）（2-19）（2-20））

[全体と部分]

(2-15) ซานตาครอส มี เครา ยาว สีขาว

santakros mii krao yao siikhao

サンタクロース mii 髭 長い 白

サンタクロースには白い長い髭がある。

(2-16) กวาง ตัวผู้ จะ มี เขา

kwang tuaphuu cha mii khao

鹿 雄 推量 mii 角

牡鹿には角がある。

(2-17) โต๊ะ ตัว นี้ มี ลื่นชัก ใหญ่

toh tua nii mii linchak yai

机 個 この mii 引き出し 大きい

この机には大きな引出しがある。

[所属場所が人や団体などの枠組み]

(2-18) เขา มี ลูกน้อง อยู่ สาม คน

khao mii luknong yuu sam khon

彼 mii 部下 yuu 三 人

彼には三人の部下がいる。

(2-19) โรงเรียน นั้น มี ครู อยู่ หก คน
 rongrian nan mii kru yuu hok khon
 学校 その mii 教師 yuu 六 人
 あの学校には6人の教員がいる。

(2-20) บริษัท นั้น มี ฝ่าย บรรณาธิการ อยู่ ด้วย
 borisat nan mii fai bannathikarn yuu duai
 会社 その mii 部 編集 yuu も
 その会社には編集部がある。

ただし、次の用例のように所属場所を場所としてとらえれば、場所を提示する前置詞がつくこともある。この場合は、「所属」ととらえるというよりも、「寺に僧がいる」という「存在」ととらえていとも解釈が可能であるが、ที่¹thii はあってもなくても「寺に僧がいる」ことを表わせる。

(2-21) ที่ วัด นั้น มี พระ ที่ มีชื่อเสียง อยู่
 thii wat nan mii pra thii miichue-siang yuu
 に 寺 あの mii 僧 修飾節マーカー 有名 存在
 その寺に有名な僧がいる。

2.3 「外在」

「外在」とは、時・空間・社会的生産物・知的生産物・過去のある時の事象がテンス性を失って存在する場合などをいう。外在するコトの存在場所は人や社会などの枠組みなどである。日本語では「Y (外在場所) ニ／ニハ X (外在するコト) ガアル」となる。

タイ語では外在場所が有情物の場合は「Y+มี¹mii+X (外在するコト)」(用例(2-22))となり、外在場所が非情物で場所ととらえる場合は「前置詞+Y (外在場所)+มี¹mii+X (外在するコト)」(用例(2-23))となる。その他に、外在場所が明示されない場合は「มี¹mii+X」(用例(2-24))となる。

「外在」(外在場所が有情物の場合) : 「Y+มี¹mii+X (外在するコト)」(用例(2-22))

「外在」(外在場所が場所の場合) : 「前+Y (外在場所)+มี¹mii+X (外在するコト)」

(用例(2-23))

(2-22) เขา มี ประสบการณ์ ต่างๆ มากมาย
 khao mii prasopkarn angtang makmai
 彼 mii 経験 様々 たくさん
 彼には様々な経験がある。

(2-23) ใน สังคม มี กฎเกณฑ์ ต่างๆ
 nai sangkhom mii kotken tangtang
 中 社会 mii 規則 いろいろ
 社会にはいろいろな規則がある。

(2-24) ยัง มี เรื่องเล่า คล้ายๆ แบบนี้ อีก มากมาย
 yang mii rueanglao klaiklai baepnii iik makmai
 まだ mii 話 似る このように もっと たくさん
 ほかにも似たような話はたくさんある。

2.4 「部分集合」

「部分集合」とは、ある共通の性質を持った集合体が全体集合の中に部分集合として存在することを示す文のことである。日本語では「Y (全体集合) ニノニハ X (部分集合) ガアル」となる。

タイ語では、全体集合が明示される場合は「Y + $\overset{mii}{\text{mii}}$ + X (部分集合の属性)」(用例 (2-25) (2-26) (2-27)) となり、全体集合が明示されない場合は部分集合の属性が X を修飾する形で示され、「 $\overset{mii}{\text{mii}}$ + X (部分集合) + A (修飾節)」(用例 (2-28) (2-29) (2-30)) となる。

「部分集合」(全体集合が明示される場合) : 「Y (全体集合) + $\overset{mii}{\text{mii}}$ + X (部分集合の属性)」
 (用例 (2-25) (2-26) (2-27))

「部分集合」(全体集合が明示されない場合) : 「 $\overset{mii}{\text{mii}}$ + X (部分集合) + A (修飾節)」
 (用例 (2-28) (2-29) (2-30))

(2-25) หนังสือ มี ทั้ง ราคา แพง และ ถูก
 nangsue mii thang rakha paeng lae thuk
 本 mii も 値段 高い と 安い
 値段の高い本もあれば、安い本もある。

(2-26) คนเรา มี ทั้ง ตัว สูง และ เตี้ย
 khonrao mii thang tua sung lae tia
 人間は mii も 背 高い と 低い
 背の高い人もいれば、低い人もいる。

(2-27) สินค้า ชนิด นี้ มี กลุ่มลูกค้า หลัก คือ แม่บ้าน และ นักศึกษา
 sinkha chanit nii mii klumlukkha lak khue maeban lae naksuksa
 商品 種類 この mii 購買者 主な は 主婦 と 学生
 その商品の主な購買者に、主婦、学生がいた。

(2-28) มี เพื่อน คนหนึ่ง ที่ หา งาน เป็น ครู โรงเรียน มัธยมต้น ตั้งแต่ ก่อน เรียนจบ
mii puean khonnueng thii ha ngan pen kruu rongrian matthayomton
mii 友達 一人 関係詞 探す 仕事 なる 教師 学校 中学
私の友達には卒業しない前から、中学教師の口を探している人がいた。

(2-29) มี ครู บางคน ที่ ลักษณะ คล้าย กับ เขา
mii kru bangkhon thii laksana klai kap khao
mii 教師 ある(人) 関係詞 個性 似る と 彼
教師の中には彼のような人もいる。

(2-30) มี เครื่องคอมพิวเตอร์ ที่ ตก ก็ ไม่ พัง
mii khrueng-computer thii tok koh mai phang
mii コンピューター 関係詞 落ちる ても (否定) 壊れる
落としても絶対壊れないコンピューターもある。

2.5 「所有」

本稿では、「人が人を所有する」「人がものを所有する」というように、具体物を所有することを「所有」とし、抽象的なモノの所有となる「特性」「内在」とは区別する。日本語では「Y (所有者) ハ／ニハ X (所有するモノ) ガアル」となる。

タイ語では、Yは有情物であることから、特に場所を示す前置詞等をとみなわずに所有者として提示され、「Y (所有者) + มีmii + X (所有するモノ)」(用例(2-31)(2-32)(2-33)(2-34))となる。

「所有」：「Y (所有者) + มีmii + X (所有するモノ)」

(用例(2-31)(2-32)(2-33)(2-34))

(2-31) เขา มี ภรรยา แล้ว
khao mii panraya laeo
彼 mii 妻 もう
彼には妻がある。

(2-32) ฉัน มี พี่ชาย สอง คน
chan mii phichai song khon
私 mii 兄 二 人
私は兄が二人いる。

(2-33) lung khong n̄n mii ngoen yoe

lung khong chan mii ngoen yoe
叔父 ~の(所有) 私 mii お金 たくさん
叔父にはお金がたくさんある。

(2-34) phuying khon non mii samii thii ruai maak

phuying khon non mii samii thii ruai maak
女 人 あの mii 夫 関係詞 金持ち とても
あの女性には大金持の夫がいる。

2.6 「特性」

特性を表す文とは、所有者 (X) がその所有者固有の性質や能力や属性などを持っている場合の表現で、恒常的な存在となる。日本語では「Y (特性の持ち主) ハ/ニハ X (特性) ガアル」となる。

タイ語では「所有」と同じ表現形式で「Y (特性の持ち主) +^{mii}mii + X (特性)」(用例 (2-35) (2-36) (2-37)) となる。

「特性」: 「Y (特性の持ち主) +^{mii}mii + X (特性)」(用例 (2-35) (2-36) (2-37))

(2-35) khao mii kwamsamart thangdan-kan-ngoen

khao mii kwamsamart thangdan-kan-ngoen
彼 mii 能力 利殖
彼には利殖の才 (= お金を増やす才能) があった。

(2-36) wan mii khunnalaksana khong sat-liangluk-duai-nom

wan mii khunnalaksana khong sat-liangluk-duai-nom
くじら mii 特性 ~の(所有) 哺乳動物
くじらには 哺乳動物の持つ特性がある。

(2-37) suea thii tat chak phamai cha mii kwam ngao-ngam

suea thii tat chak phamai cha mii kwam ngao-ngam
ブラウス 関係詞 作る から シルク 推量 mii 光沢
シルクのブラウスは光沢がある。

2.7 「内在」

「内在」とは、外的なこととの関わりで人の内面に生じる感覚や感情や思考、意識などを所有することである。恒常的な存在である「特性」とは異なり、非恒常的な存在となる。日本語では「Y (内在の持ち主) ハ/ニハ X (内在するモノ) ガアル」となる。

タイ語では内在するモノを所有しているととらえる「Y (内在の持ち主) +^{mii}mii + X (内在するモノ)」

ノ)」(用例(2-38)(2-39))と、Yの状態描写ととらえる「Y(内在の持ち主)+X(その状態の描写)」(用例(2-40)(2-41))がある。

「内在」：「Y(内在の持ち主)+^{มี}mii+X(内在するモノ)」(用例(2-38)(2-39))

「内在」：「Y(内在の持ち主)+X(その状態の描写)」(用例(2-40)(2-41))

(2-38) เขา มี ความมั่นใจ

khao mii khwammanchai

彼 mii 確信

彼には確信があった。

(2-39) เขา มี ความทะเยอทะยาน

khao mii khwam-tayoe-tayan

彼 mii 野心

彼には野心がある。

(2-40) ฉัน รู้สึก เจ็บ และ ไม่สบาย ใน คอ ตลอดเวลา

chan rusuk chep lae maisabai nai kho talotwela

私 感じる 痛い と 不快感 中 のど ずっと

ずっとノドに痛みと不快感を感じている。(ずっとノドに痛みや不快感があった。)

(2-41) รู้สึก เจ็บ แปลบๆ ที่ หน้าอก

rusuk chep plaepplaep thii na-ok

感じる 痛い するどい に 胸

私は胸にするどい痛みを感じる。(胸に鋭い痛みがある。)

2.8 「デキゴト」

「デキゴト」の実現とは、あるデキゴトが特定の時間に実際に起きている、あるいは実際に起きたという場合で、「時間軸上に局在するできごと」である。日本語では「デキゴト(X)ガアル」となる。

タイ語では、「デキゴト」は^{มี}miiを用いて表すが、そのデキゴトの起こった時や場所が明示される場合は「(時)+^{มี}mii+X(デキゴト)+((前置詞+Y(デキゴトの場所))」(用例(2-42)(2-43)(2-44))となる。

「デキゴト」：「(時)+^{มี}mii+X(デキゴト)+ (前置詞+Y(デキゴトの場所))」

(用例(2-42)(2-43)(2-44))

- (2-42) พรุ่งนี้ มี ประชุม แต่ เช้า
 prungnii mii prachum tae chao
 あした mii 会議 から 朝
 明日は朝から会議がある。
- (2-43) วันนี้ มี สอบ ภาษาอังกฤษ ที่ โรงเรียน
 wannii mii sop phasa-angkrit thii rongrian
 今日 mii 試験 英語 に 学校
 今日は学校で英語のテストがある。
- (2-44) มี คน ตก สระน้ำ ที่ อยู่ ใต้ เขื่อน ใน
 mii khon tok sra-nam thii yuu tai khuean nai
 mii 人 落ちる 池 関係詞 yuu 下 ダム 中
 ダムの下の池に落ちて死んだ人があった。

2.9 まとめ

2.1から2.8までで考察を進めてきた、日本語の「がある」構文の意味的内容（「存在」「所属」「外在」「部分集合」「所有」「特性」「内在」「デキゴト」）に対応するタイ語の表現形式をまとめると表1のようになる。

表1 日本語とタイ語における「存在・所有」の表現形式の対照

意味的内容	日本語	タイ語
「存在」	Y ニ／ニハ X ガアル	前置詞 + Y + มี mii + X + อยู่ yuu
「所属」	Y ニ／ニハ X ガアル	Y + มี mii + X Y + มี mii + X + อยู่ yuu
「外在」	Y ニ／ニハ X ガアル	Y + มี mii + X 前置詞 + Y + มี mii + X
「部分集合」	Y ニ／ニハ X ガアル	Y + มี mii + X มี mii + X + A (修飾節)
「所有」	Y ハ／ニハ X ガアル	Y + มี mii + X
「特性」	Y ハ／ニハ X ガアル	Y + มี mii + X
「内在」	Y ハ／ニハ X ガアル	Y + มี mii + X Y + X
「デキゴト」	Y デ X ガアル	(時) + มี mii + X + (前置詞 + Y)

日本語、タイ語の「存在・所有」表現について、その意味的内容と表現形式との関係をまとめたのが表2（日本語）、表3（タイ語）である。

表2 日本語における「存在・所有」の表現形式

	意味的内容 表現形式	意味的内容							
		存在	所属	外在	部分集合	所有	特性	内在	デキゴト
I	YニXガアル	○	○	○	○				
II	YニハXガアル	○	○	○	○	○	○	○	
III	YハXガアル					○	○	○	
IV	YデXガアル								○

日本語では、「がある」構文が『存在』も『所有』もすべてを担うが、この表より、「存在」「所属」「外在」「部分集合」では存在場所は「Yニ」によって提示されることから『存在』、「所有」「特性」「内在」は所有者が「Yハ」によって提示されることから『所有』ととらえることができるだろう。「YニハXガアル」の表現形式で「デキゴト」以外の七つの意味的内容が表わされることから『存在』と『所有』の連続性がうかがえる。「デキゴト」では、そのデキゴトの起こる場所は存在とは明らかに違ってデ格によって表わされる。

次の表3は、タイ語における「存在・所有」の表現形式をまとめたものである。

表3 タイ語における「存在・所有」の表現形式

	意味的内容 表現形式	意味的内容							
		存在	所属	外在	部分集合	所有	特性	内在	デキゴト
I	前置詞 + Y + ṁmii + X + ɔ̀yuu	○							
II	Y + ṁmii + X		○*1	○*3	○*5	○	○	○*7	
III	Y + ṁmii + X + ɔ̀yuu		○*2						
IV	前置詞 + Y + ṁmii + X			○*4					
V	ṁmii + X + A				○*6				
VI	(時) + ṁmii + X (+前置詞 + Y)								○
VII	Y + X (状態描写)							○*8	

- *1 全体と部分の関係
- *2 所属場所が人や団体などの枠組み
- *3 外在場所が有情物の場合
- *4 外在場所が非情物で場所ととらえられる場合
- *5 全体集合が明示される場合
- *6 全体集合が明示されず、部分集合の属性がXを修飾する形で示される場合
- *7 内在場所が有情物の場合
- *8 内在場所が内在の持ち主の部分

表から、タイ語では、「存在」は存在場所に存在場所を明示する前置詞がつき、また、存在動詞ɔ̀yuuも共起する場合が多い(表現形式I)。一方、「所属」「外在」「部分集合」「所有」「特性」「内在」が同じ表現形式II「Y + ṁmii + X」によって表わされることがわかる。

3. おわりに

以上、日本語での「がある」構文の八つの分類の意味的内容がタイ語ではどのような表現形式で表わされるのかについてみてきた。日本語では「存在」「所属」「外在」「部分集合」までは大枠での『存在』とみなすことができ、「所有」「特性」「内在」は大枠での『所有』とみなすことができる。しかし、どれも「YニハXガアル」形式で表わすことができ、『存在』することが『所有』することにつながり、『存在』と『所有』は連続していると考えられると筆者は考える。

一方、タイ語では、「存在」ではYは物や人の存在場所と認識され、場所を提示する前置詞が共起するが、「所属」「外在」「部分集合」「所有」「特性」「内在」では、Yはものや人やコトの所有者と認識され、場所を提示する前置詞が共起しない。したがって、「所属」「外在」「部分集合」「所有」「特性」「内在」は大枠での『所有』ととらえることができると筆者は考える。また、「デキゴト」は日本語と同様デキゴトが存在するととらえ、そのデキゴトの起こる時と場所が状況語として示される（表現形式VI）。

このように言語によって何を大枠での『所有』ととらえ、何を大枠での『存在』ととらえるかが同じではないため、その表現形式の使い分けにも相違がみられるが、このことは『存在』と『所有』に対する基本的なとらえ方は言語によってそれぞれの特徴があることを示唆していると考えてよいだろう。

注

(i) 存在動詞「ある」については、これまでに多くの研究がみられる。それらの研究の流れについて、大塚（2004：112）には以下の四つがあげられている。

1. 形式動詞「ある」の研究
2. 存在動詞「ある」の研究（『いる』との比較）
3. 状態動詞「ある」の研究（アスペクト研究）
4. 機能動詞「ある」の研究

これらの研究の詳細については、大塚（2004）に詳しく述べられているので参照されたい。新居田（2014a）では、2にあげられている存在動詞「ある」について「意味・用法の違いから共起する名詞の種類までを記述した研究（金水（2003）、高橋・屋久（1984）、三上（1970））」および新居田（1999b）をもとに日本語の「がある」構文を「YニXガアル」形式として、「XとYの組み合わせ」と「XとYの関係」から「Xがある／いる」の表す意味的内容を「存在」「所有」「所属」「特性」「内在」「外在」「部分集合」「デキゴト」の八つに分類した。日本語では、この八つの分類のうち「所有」「特性」「内在」は「Y（所有者）ハ／ニハ」となるので大枠での『所有』、「存在」「所属」「外在」「部分集合」は「Y（存在場所）ニ／ニハ」となるので『存在』と考える。

日本語における「がある」構文の意味的内容とその表現形式

意味的内容 表現形式	用例
「存在」：具体物が存在する 存在場所ニ／ニハ 存在するモノガアル	机の上に本がある。 母親の隣に子供がいる。
「所属」：物や人が所属する 所属場所ニ／ニハ 所属するモノガアル	サンタクロースに白い長い髭がある。 その会社には編集部があった。
「外在」：時、空間、社会的生産物などが存在する 人やある枠組みニ／ニハ 外在するコトガアル	学校にいろいろな規則がある。 彼には仕事がある。
「部分集合」：部分集合が存在する 全体集合ニ／ニハ 部分集合ガアル	SNSにフェイスブックというのがある。 鶏肉が嫌いだという人がいる。
「所有」：具体物を所有する 所有者ハ／ニハ 所有するモノガアル	私は家がある。 私には妻子がいる。
「特性」：固有の属性を有する 特性の持ち主ハ／ニハ 特性ガアル	そのブラウスは光沢がある。 彼女には爪を噛む癖がある。
「内在」：非恒常的な存在がある 内在の持ち主ハ／ニハ 内在するモノガアル	彼は背中に痛みがあった。 彼にはそれに対する確信がある。
「デキゴト」：時間軸上に局在してデキゴトがおきる (場所デ／時) デキゴトガアル	昨日、学校で英語のテストがあった。 明日、港で花火がある。

(ii) 特にことわりのないデータは、タイ、バンコックに在住の30代の男性によるものである。資料収集は、日本語（英語）の翻訳という形で調査をおこなった。（調査期間：2014年8月～2015年2月）

(iii) 本稿の被調査者からは、əɟyuuに関して「[ɲimii～]は「～が存在している」という意味だけを表わしていて、[ɲimii～əɟyuu]の方は「目的や利益」を含意している「～が存在している」という意味を表わす。そして、[ɲimii～əɟyuu]は、日本語の「～である」「～しておく」の意味と近いように思う。」という所見をもらっている。

- (iv) ここでの表現形式(4)「[mii+X+場所] ([YにXがある・いる])」を『存在』、(5)「[Y+mii+X] [YにはXがいる (ある) / YはXを持っている]」を『所有』と名付けたのは筆者である。
(v) əjyuuがあることで、その所属という状態に「目的や利益」というニュアンスを添えていると考える。

参考文献

大塚 望

2004 「「～がある」文の多機能性」『言語研究』125: 111-142

金水 敏

2003 「所有表現の歴史的变化」『月刊言語』32(11): 38-44、大修館書店

高橋太郎・屋久茂子

1984 「『～がある』の用法——(あわせて)『人がある』と『人がいる』の違い——」『研究報告集』5: 1-43、東京: 国立国語研究所

新居田純野

1998 「人の所有を表す表現について——「人がある／いる」と「人をもつ」の両形式の分析から——」『言語学と日本語教育——実用的な言語研究の構築をめざして——』245-253、くろしお出版

1999a 「局在 (locative) について—「ある」「いる」を例にして—」『国文学解釈と鑑賞 (1月号)』85-94、至文堂

1999b 「『ある／いる』構文の研究」博士論文、お茶の水女子大学

2004a 「サオ語 (台湾中部) における存在・所有・所在の表現」『日本言語学会第128回大会予稿集』167-172

2004b 「人の《特性》と《状態》をあらわす存在文「～がある」形式について」『日本語文法』4(2): 202-213、くろしお出版

2006 「存在動詞における「遠／近」「可視／不可視」」『国文学解釈と鑑賞 (1月号)』164-173、至文堂

2010 「シタコトガアルーシタ経験ガアル、シタ経験ヲモツとの対照から」『日本語形態の諸問題』311-324、ひつじ書房

2011 「サオ語の小辞」『長崎外大論叢』14: 109-124

2014a 「タガログ語の存在表現—日本語の存在表現との対照から—」『類型学研究』4: 13-33

2014b 「マレーシア語の存在・所有表現—日本語の存在・所有表現との対照から—」『長崎外大論叢』18: 109-119

2014c 「ベトナム語の存在・所有表現—日本語の存在・所有表現との対照から—」『対照言語研究』24: 13-23

2015 「サオ語とブヌン語カ社群方言の存在・所有表現—日本語の存在・所有表現との対照から—」『台湾原住民研究』19: 75-101、風響社 (12月刊行予定)

三上 章

1970 『文法小論集』くろしお出版

三上直光

2014 『タイ語の基礎』165-171、白水社

宮本マラシー・村上忠良

2014 『タイ語』世界の言語シリーズ9 : 82-84、236-238、大阪大学出版会

吉田英人

2008 『タイ語の基本』84-90、三修社

付記

本稿は2013年－2015年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究C 課題番号25370503『台湾原住民語および東南アジア、東アジア諸言語における存在・所有表現について』）の助成を受けている研究に基づく。